

ICHINOMIYA SURFING

東京2020大会サーフィン競技 釣ヶ崎海岸で開催!



HOST VENUE

サーフィン競技の歴史

古代5世紀ごろに、航海術に優れた古代ポリネシアン人が、海での生活、特に漁に出た際に手漕ぎカヌー様式のボートで波に乗る航法を会得し、後に陸に帰る際の1つの技術として「波乗り」を完成させていったと考えられています。

ハワイ諸島を初めて統一し、1810年にハワイ王国を建国して初代国王になったカメハメハ大王(1世)もサーフィンをたしなんでいたというのは有名な話です。当時は王族専用のサーフィンビーチもあり、王族のスポーツでしたが、近代になりハワイからアメリカ西海岸やオーストラリアへと伝わったといわれています。

そして、20世紀中盤には多くの人が楽しむレジャーとなり、1964年に本格的な競技スポーツとしての国際大会が開催されました。

サーフィン競技の基本知識&大会の主なルール

サーフィンでは、試合のことをヒートと呼びます。1ヒートは多くの場合20分から30分程度です。選手が乗った波1つずつについて、5人のジャッジが10点満点で採点を行います。5人のうち最低点と最高点を除いた3人の点数の平均が、その波についての得点です。制限時間内に得た得点の高い上位2つの波の合計得点が、その選手の得点になります。(最高20点)

選手はヒートの時間内にそれぞれライディング(波に乗ること)をします。全部の波に自由に乗るのではなく、一般的に、ブレイクする波・ピークが一番近くにいる選手にライディングの優先権があり、先にライディングをした選手は、優先権が下がり、次の選手にライディングの権利が移ります。このシステムをプライオリティシステムと呼びます。注)東京2020大会サーフィン競技のルールは未定です。

技の種類

【写真提供:飯田健二様】



オフザリップ

ボードを垂直に波の頂点(リップ)に当てる技。



カットバック

ボードの進行方向を180度変える技。波が切れる前にこの技で方向転換して再度技を繰り出します。



エアリアル

波のボトムから駆け上がるエネルギーを利用して空中に舞い上がる技。しかし、着地で失敗すれば得点は付きません。動いている波に再び舞い降りるのは至難の技。



チューブライディング

波が巻く中(チューブ)をトンネルをくぐるように通り抜ける技。上級者向けの技とされています。



東京五輪サーフィン競技会場
釣ヶ崎海岸

